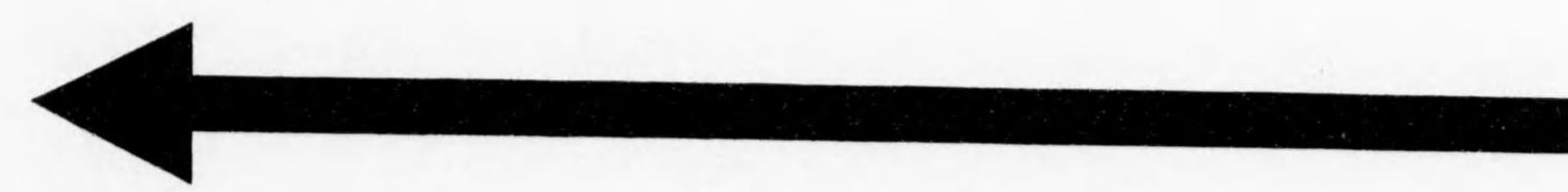


函館図書館叢書 第貳篇 第貳冊

津輕海峽と生物の分布

北海道廳立函館中學校教諭 佐々理宜造

始



041
H18

函館圖書館叢書

第二篇第二冊



甲比丹普拉基斯の發行紙幣

津輕海峽と生物の分布

北海道立函館中學校教諭

佐々理宜造

昭和三年十月十六日講

於市民館

市立函館圖書館

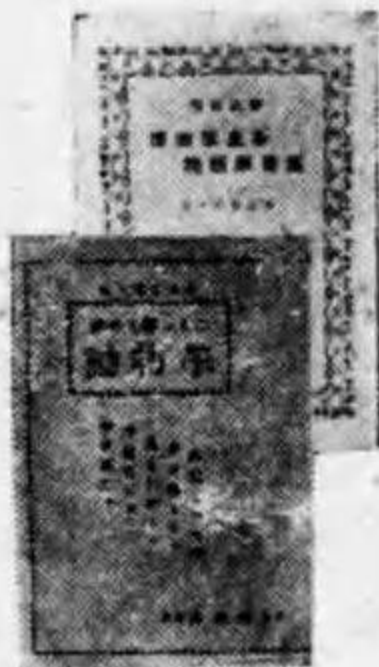


發行所寄贈本



北 海 道 産 猪
明治三十二年ノ秋ニ獲ル

278-47



津輕海峽と生物の分布

昭和三年の讀書週間は我が函館圖書館として初めての試みである、十月十五日より二十一日まで、一週間に亘り、婦人・科學・文化の三講座を市民館に、音樂及兒童の大會を公會堂と巴小學校とに開催し、豫期以上の來會者を得た事は主催者として満足する處である、今其講演中、特に函館と關係深き『津輕海峽と生物の分布』と題する函館中學校教諭佐々理宜造氏の講演速記を鉛槧に附するものである。

明治節の日

北海道廳立函館中學校教諭 佐々理宜造

吾人々類は直接間接に動物植物を食物となし、木材を以て家を作り、或は燃料となし、又は衣服の原料を動植物界に仰ぐなど、生物は吾人の生活に必要缺くべからざるは茲に述べるまでもないことである。従つて生物の分布状態はその地方の人類に影響を及ぼすことの大なるは當然のことであつて、これを研究するのは人類の幸福を進める所以である。

地球上に於ける生物分布の状態を見るに、土地の高低に依り、或は南北地を隔てることに依

つて種類を異にして居る。同じ緯度で、同じ氣候であつても、地殼の變動、食餌動物、外敵等によつて同一の種類を産するものとは限らない。古生代、中生代には地球上の水陸の區劃や、氣候の差が著しくなかつたので、生物の分布も各地大差がなかつたやうである。この事實は本道の美唄炭山から、しゆろ、そてつ、いだのやうな熱帯植物の化石を産することに依ても知ることは出来る。然るに新生代の第三紀となつて氣候の差異が現はれ、生物特に植物の生育に影響を及ぼして、分布上に稍著しい變遷を起した。また地殼に大變動が起り、水陸、山川、原野の配置が變轉して略々今日のやうになつたので、氣候や水の關係が非常に變り高山、海洋は動物の傳播に障礙を與へて、生物を地方々々に固定させるやうになつた。次の第四紀洪積期の氷河時代には氣候が寒冷になつて、ヨーロッパの北部、アジアの一部及び北アメリカの北部は一面厚い氷に被はれ、ために熱帯性の生物は全く死滅してその分布上に大變化を生じ、その影響は今日まで及よんで居るのである。

さて我國の生物の分布は如何であるかといへば、我國の地形、南から北に長く、その間に數多の海峡があつて、生物の分布に區域を生じて居る。例へば琉球、台灣には蛇類が多く、せんざんかう、へうは台灣に産し、とらは朝鮮に、となかい、じやかうしかは樺太に、而して本道にはひぐま、おほかみなどを産するがやうなものである。特に本道と本州とは僅かに津輕海峡を隔て、居るだけであるが動物が分布上著しく異つてゐて、鳥類、哺乳類の種類を異にして居る。即ち本州には固有種の多いのに反し、本道には寧ろアジア大陸と同様のものを産する事である。余はこの事を諸君と共に研究して見たいのである。

この事實を始めて発見した人は彼の有名なブラキストンである。ブラキストンは諸君も知る如く英國砲兵大尉でロツキー山に二回までも登り、後には支那の苗族に就て研究したといふ偉人である、この人は明治の初年に我函館にゐる製材業を經營し、傍ら鳥類の研究に興味を持つて居たさうである。たまたま前述した事實を発見して、津輕海峡によつて、かく種類を異にするは畢竟北海道の未だシベリア大陸に接續して居た時に既に津輕海峡は出來てゐたもので、ひぐま、おほかみはシベリアから北海道には渡り得たが本州に渡ることが出来なかつた。また月輪熊、さる、おのし、などはこの海峡のために北海道に渡り得なかつたのであると發表した。ブラキストンは明治の初年に此の如き事實を発見し、斯の如き意見を發表されたものは實に敬服に價するものといはねばならぬ。今猶此説を信じて居る學者は多いやうであつて、津輕海峡を動物分布上ブラキストン線といふのである。

余は大正九年十月三十日に始めてこのブラキストン線を比羅夫丸で渡つた。やがて一週日の後に中學に赴任して博物教室を引繼いたが、標本の中に本道駒ヶ岳産の、おのし、と稱するものがある。しかも本道唯一の産としてあるのに頗る驚かされた。この剝製は畏くも

大正天皇の皇太子にあらせられた明治四十四年に本道に行啓遊ばされた時、親しく本校に臨ませられた際に台覽を賜つたものである。余は不幸にして未だ嘗て、おのし、の實物を觀察したことはないで、果してこれは、おのし、であるか、豚の野生のものであるか断定に苦しむけれども、全体の容貌は全くおのし、であつて、特におのし、として台覽に供したことに依つておのし、と見て差支ないと思ふ。尤も体色の黒褐色ならざる點と、牙の小なる所は豚に似て

るが、るのしいの雌は牙は小さく、また年経るに従つて白毛を生ずるとのことである。産地の駒ヶ岳は間違ないやうで、明治二十三年頃に獲つたものであるとのことである。當時余は固くブラキストンの説を信じて居たものであるために驚いたのである。若しブラキストンの説に従へばこのるのしいは本道に居ない筈で、興業師が内地より持ち來り取逃したものを駒ヶ岳で獲つたものか、或は豚の祖先返りしたものか、その何れかでないならぬ譯である。時の校長小田先生は博物學の造詣特に深く、且永く函館に居られた方であるから、この事に就いて教を乞ひしに、それが君の問題である、研究して見たまへとのことであつた。

爾來余はこの津輕海峡の生物分布について考へ、屢々小田先生のお考も伺つたが、とのさまがへる一疋獲つたら兎をぬぐとのお話であつた。しかし未だにそのとのさまがへるは一疋も見當らないまた發見する見込がない。種々調べて見ると、なる程津輕海峡によつて南北その産する動物を異にして居ることは事實で、現今本州に産するさる、いたち、月輪熊、るのしい、やまいぬ、こげら、かけす、えなが、とのさまがへるなどは本道に産しないで、本道に産するひぐま、えぞいたち、おほかみ、やまげら、しまえなが、えぞやまどりなどは本州に産しない。

しかし現今生物の分布はかく異つて居ても、余は本道の成因は大陸より分離したにせよ、また隆起したにせよ、津輕海峡はブラキストンの説のやうに他のオホーツク海や宗谷海峡より早く既に出來たものとは考へられない。余は津輕海峡はオホーツク海、宗谷海峡と同時代に來たものと思ふ。生物の分布の異なるのも何等不思議とするに足らぬことである。何となれば從來居たるのしが今居らないからとてるのしいを産せずといはれない。現におほかみは如何であら

うか。昔は澤山居たに違ひないが今日では殆んど見た人はない。即ち絶滅に近くなつてゐる。もと居たものがなくなるのは何も不思議ではない。

生物の種、屬は下等なものは滅亡して高等なものが榮えるのは化石の證明する所である。今は人類全盛の時代であるけれども、若しも人類に超越した何物かが現はれたならば、人類滅亡の時期に到達しないとも限られない。吾々に壽命あるやうに、種、屬にも亦壽命のあることは考へ得る譯である。

またシベリアに産するひぐまは居るからとて、これも不思議ではない。宗谷海峡があつても冬季結氷することであれば流水に乗て渡り得ることは他にも例のあることであるし、今日でも流水が稚内などに流れ込むので疑をおく必要がない。

さるの本道に産しないのは、元來さる類は暖な地方を好む動物であつて、日本猿は猿類中最も北に住する種類ではあるが、本道の氣候には適しない。氣候のために分布を異にするは當然である。それから、えぞいたちの冬季白色に變ずるはえちご、うさぎの冬に白く、夏は褐色に變ると同じく保護色である。月輪熊の本道に居ないのは、丁度佐渡にたぬきが居るも狐の居ないのと同様である。とのさまがへるの問題も、これと同科のやまあかがへるやえぞのあかがへるの多く産する所から見れば、恐らく本道の開拓おそく、水田等のなかつたのと、外敵、食餌動物に依るものと思はれる。この外、内地に産するるもり、さんせ、うを、もぐら等も數は少ないが本道にも居り、本道に産するざりがには青森、秋田にも産し、鳥類のやうな移動力の強いものは問題にはならぬ。

要するに余は動物の分布上より見ては津輕海峽は他の海峽や高山と同様で、左程重要なものとは思はれない。

次に植物の分布であるが、本道獨特のものは余の知り得たものでも九十種ばかりある。植物の形態は外界の状態の支配を受けるもので、例へばえぞのだけか、んばは喬木中にあれば喬木となり灌木中に生ずれば灌木となる性があるやうなものであるから、内地産のものと同種のもので別種のやうに見える場合もある。

柳も本道植物の知られたのは、今より約二百年前享保十二年に幕府の阿部將翁が松前に来て白花の附子、を採集献上したのに始まつて居る。その後寛政十一年約百三十年前に澁江長伯が蝦夷地に採集の命を受けて三月二十日に江戸を立つて來道し、三十四人を連れて東海岸を通り厚岸に行つて九月二十日に江戸に歸つた。また栗本某が今より七十六年前に一族を率ゐて箱館に移住し、附近の植物に注意し、千歳で五味子、を發見して幕府に獻じたが朝鮮産に同じといふので年々献上するやうに命ぜられた。七飯に藥草と杉を栽培したのはこの人である。萬延元年即ち今から六十八年前の秋、露人マキシモウキツチが、この函館に來て、留ること二年二月その僕、南部の人須川長之助に植物採集のことを教へて廣く採集せしめた。これが本道植物の漸し科學的に研究された始めであつて、學名に *Herz.* のついて居るのはその結果である。當時露勢東その地質學會は樺太植物を研究し、五百種を記載した。

その後宮部博士が明治二十三年（三十八年前）に北海道植物を外國に持つて行つて研究された。日本人で植物を研究したのは宮部博士を以て嚆矢とする。

現今函館附近の植物の数は、山本元函館中學校教諭の調査に依れば百二十二科、四百五十四屬、八百三十種ある。即ち野外植物の總數九百乃至一千種の間にあるであらう。

最後に一言したいのは、我この函館は問題の津輕海峽に臨み北海道の關門として、東京以北第一の大都會であり、本道植物研究の老家本元であり、有名なブラキストンの居住地でありながら、一の博物館も持つてゐないことは函館の耻辱とまではしなくとも、諸君と共に甚だ遺憾とせねばならぬ。畏くも、今上天皇陛下には深く生物學に御趣味をもたせられ、宮城内に御研究所を設けさせられてあると聞いて居る。來月は御即位の大禮を行はせられることであるが、この御大典の記念として博物館を建設せられたならば、聖旨に副ひ奉ると同時に、函館文化に影響する所大にして、最も相應しい記念事業と思ふのである。敢て十八万市民の御一考を煩したい次第である。

(終り)

佐々理宜造先生著述目録

初	生理衛生學	全一冊	東進發行
め	動物學	全一冊	京書堂
て	植物學	全一冊	京書堂
人	動物學	全一冊	京書堂
ぶ	植物學	全一冊	京書堂
學	動物學	全一冊	京書堂
の	植物學	全一冊	京書堂
博	動物學	全一冊	京書堂
物	植物學	全一冊	京書堂
通	動物學	全一冊	京書堂
論	植物學	全一冊	京書堂
全	動物學	全一冊	京書堂
一	植物學	全一冊	京書堂
冊	動物學	全一冊	京書堂
	植物學	全一冊	京書堂

昭和三年十一月六日印刷
昭和三年十一月十日發行

(函館圖書館叢書
第貳篇・第貳冊)

市立函館圖書館

印刷人 函館市蓬萊町一〇三番地 白瀬由太郎

印刷所 函館市蓬萊町一〇三番地 函館印刷

函館圖書館叢書 第二篇 第二册
 「津輕海峽に生物の分布」正誤表

頁	行	誤	正
7	6	天皇陛下	天皇陛下
6	15	當時露勢東	當時露勢東漸し
6	14	本道植物の漸し	本道植物の
6	7	抑	抑
4	18	ゐのし、	ゐのし、い
4	16	時代に來た	時代に出來た
3	8	發表されたものは	發表されたのは
1	2	讀書週間	讀書週間

終